

研修ニュース

〒518-0814 三重県伊賀市上友生 785 番地

TEL&FAX : 0595 (21) 8839

E-Mail : iga-ken@iga.ed.jp



研修講座 B-3 人権・同和教育【3回連続講座】①を実施しました！

「人権・同和教育を進めていく上で大切にしたいいくつかの視点」

【講師】 伊賀市教育委員会人権教育アドバイザー 栗原 成寿 先生

5月22日（月）に、「人権・同和教育連続講座【3回連続講座】①」を実施しました。講師に栗原成寿先生をお招きし、「人権・同和教育を進めていく上で大切にしたいいくつかの視点」というテーマでご指導いただきました。

前半には、受講者から事前アンケートをもとにした自己紹介をおこない、「子どもの生活背景を知ることの大切さを実感した場面や3回連続講座で学びたいことについて共有する時間となりました。

後半は、栗原先生より大きく3点についてご講義いただきました。1点目は、子どもの貧困率の話から「教育的に不利な環境のもとにある子ども」が見えているか、また、「なぜその子が教育的に不利な環境のもとにある子どもなのか」について明らかにすることが必要であるということをご指導いただきました。

2点目は、「家庭訪問」についてです。なんのための家庭訪問なのかねらい、目的を持って行くことが大切であり、特に「子どもや保護者のくらしの現実に出会う」家庭訪問、「出会った現実をもとに教育活動として『生きる力』を獲得させる」家庭訪問が重要であることを学びました。

3点目は、「なかまづくり」についてです。人権・同和教育のなかで大事にしてきた「なかまづくり」とは、くらしの交流を通しての「なかまづくり」であり、しんどいことを出し合っただけの「なかまづくり」であること、そのなかまづくりは、子どもたち同士の自然発生的なものではなく、教員の意図的・継続的な取組であることを改めてご指導いただきました。

今回の研修会を通して、今までの自分を振り返りながら、今後どんなことから取り組んでいけばいいのか、受講者一人ひとりが考える機会となりました。

第2回は、1学期の取組レポートをもとにグループに分かれて交流します。受講者のみなさんには1学期の取組レポートを作成（7/26×切）していただきます。ご準備をよろしくお願いいたします。



アンケートより【一部抜粋】

・家庭訪問のねらいの話で、家庭での様子やくらしぶりが見えてきたが、それで終わってしまっているのが自分の課題であると感じました。見えてきた課題をどう教育活動に変えていくか、まだわからないこともありますが、周りの先生や関係機関へ相談して考えていきたいと思いました。(小)

・「なかまづくり」は、勝手につながっていくものではなく、教師が意図的につくっていくものであることを改めて感じました。一人ひとりの子どもと向き合い、くらしのどこに目をむけさせればいいのか理解した上で行っていく必要があると思いました。(小)

・栗原先生の話から学校の姿だけでその生徒の姿を見るのではなく、その姿の背景を知ることの大切さを教えてもらいました。現在、週に数日は家庭訪問へ行っていますが、まずは保護者との関係をつくることをより深め、何度も重ねるなかで視点生の背景や見つめさせたいくらしを具体的に考えていきたいです。(中)